



日高ロータリークラブ WEEKLY

2021-2022 R.I テーマ
奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

THE ROTARY CLUB OF HIDAKA

例会日	毎週火曜日	時間	第1・3週 18:00~19:00	第2・4週 12:30~13:30
例会場	日高市商工会	住所	〒350-1206 日高市南平沢 1083 日高市商工会館内	
事務所	同上	TEL. FAX	042 (985) 3355	
会長	町田 秀雄	幹事	白井 威	会報委員長 古本 良子

第1807回例会 2022年5月24日(火)

2022年6月7日発行 第1628号

会長報告 町田秀雄会長

第2570地区ガバナーエレクトである村田貴紀様が、次年度『こども家庭委員会』を立ち上げるという方針を打ち出されました。日本社会、国際社会に於いて、言うまでもありませんが子どもたちは本当に『宝物』であるとおもいます。こういった委員会が立ち上がることには、大賛成であります。昨今、子どもたちの生活環境は情報化社会に伴い激変し、大変な時代の中を生活していると感じます。近年はコロナウィルスが出現したり、戦争が勃発したり、そういった問題も子どもたちを追い詰めている気が致します。私にも子どもはおりますが、思春期というものもあるのでしょうか…身体の悩み、友達との関係、様々なストレスを抱え闘っております。そして、そういった過酷な環境の中に、パソコンやスマートフォン(スマホ)などが入り込み、様々な情報に振り回されてしまうのです。先日、テレビでこういった悩みを抱える子どもに関する内容の特集番組が放映されておりました。現在、小学校高学年(4年生以上)で10%、中学生22%、高校生で23%の子どもが、うつ病と診断されているそうです。その中で、自傷行為(自分の体の一部を意図的に傷つける行為)に及んでしまう子が16%もいるとのことでした。ただでさえ、思春期というのはホルモンのバランスが変動し、ストレスを抱えやすい時期であります。現状、7割近くの子供たちが、そういった環境に悩まされていることとなります。時代の違いと言えればそれまででしょうが、私たちの育って来た環境と余りにも違い過ぎて悩ましく思います。自身の子育てに於いても、精神的な部分でどうフォローしてあげていいか悩む時があります。子どもは子どもの世界で生きていて、その真髓に入っていくのはかなり難しいことでもあります。なかなか厳しい世界で生きているなあ…と感じています。ただ、そういった厳しさの中にも、何か拠り所を見つけ、救いを見出すお手伝いをしたいと常に思っています。大人が手を差し伸べて、少しでも救える何かがあれば本望ではないでしょうか。



幹事報告 白井 威幹事

地区事務所より

- ・第5回ロータリー財団委員会勉強会のお知らせ
6月18日(土) 13:20~16:00
※オンライン開催

~贈呈式~

幹事報告

・第20回飯能新緑ツーデーマーチに際し、飯能RC様と共同で飲料水の提供(ダイドードリンコ社)をさせて頂きました。協賛金(15万円)の領収書が、後日当クラブ宛に届く予定です。尚、両日は受付のお手伝いを午前中のみですがさせて頂く予定です。担当となっている会員様には、お手数ですが宜しくお願い致します。



卓話 白井 威会員

セミナー報告『クラブ活性化セミナー2022』

4月21、22日 於：東京JPタワー

RI 理事(2020-2022)辰野克彦氏召集により、RI 役員44名、国内3地域(北海道～沖縄)より、219名の会員が出席し開催されました。2570地区からは、ガバナーエレクト、補佐4名、専門委員委員長5名が参加して参りました。2日間で6セッション(1セッション90～120分)という内容でした。1日目の夜に、会場近くの東京会館にて懇親会が行われ120名が出席致しました。大変賑やかで、有意義な懇親会でした。



～オープニングセッションからセッション6まで～

冒頭、次年度R1会長のテーマ『イマジンロータリー』についての話がございました。イマジンロータリーとは、ロータリーで何が出来るのかを想像し、実践していくという意味です。「過去は想像できません、未来を想像しましょう」とのことでした。第2570地区村田貴紀ガバナーエレクトも次年度地区強調事項に掲げておられますが、DEI(多様性・公平さ・インクルージョン)を理解して会員増強につなげていくことが大切。さまざまな壁を取り除くことが、会員数クラブの質の向上に繋がるとのお話でした。また、ローターアクト活動なども親クラブに依存せず、自クラブで自発的に活動できるようにしていく。これらが真のロータリーを育てていくことになると強調されていました。

2月の国際協議会の概要説明がございました。協議会に参加して感じられた感想を、登壇者3名がそれぞれスピーチする形式でした。2750地区(東京)の方が「当地区は東京都をメインとして活動していますが、太平洋のミクロネシア地域も含まれているので、グアムなどのロータリークラブとも交流が盛んです。広尾RCは、区内のグアムRCとの交流の中で、地域内で貧困に苦しむ学生に対し、1万ドルの支援をしたことがありました。支援された学生たちがやがてローターアクターとなり、2750地区の地区大会には毎年お招きしています。そのような学生たちの中から、ハワイ大学に通い後に医者となって活躍する方などもいて、時間をかけてロータリーの奉仕が実を結ぶ事例も多いです」とお話ししていたのが印象的でした。そして居心地のいいクラブの条件として「外部の人も取り込み、充実した列会を毎回開くということ。外部の人とは米山学友やローターアクトなどであり、そういった人たちとのつながりを大切に、クラブの活性に生かすということ」と仰っていました。会員増強とクラブ拡大についてですが『新クラブ結成に向けたプロセス・その後』という内容で、宮崎アカデミーロータリークラブの方がお話されました。2018年に宮崎大学内の教授をはじめとする大学の理事たちが、学内でクラブ設立をされたそうです。クラブ概要は『入会金無し』『年会費6万円』『例会月2回』というもので、平均年齢は54.87歳と大変若々しいクラブであります。例会は学内で行い、食事はされないとのこと。学内者ばかりなので、卓話講師はたくさんいて困ることはないそうです。通常の卓話時間は20～30分ですが、短いという人が多いとのこと。ふだんは2～3時間講義や講演をしているため、30分くらいではあっという間なのでしょう…。しかし、ロータリー未経験者が非常に多いので、ロータリーに対する認知度は低く「例会でなぜ歌を歌うのか?」といったような素朴な疑問も出始め、例会に全く来なくなってしまう会員も出始めたそうです。最近では『メーキャップ同好会』を立ち上げ、ロータリー経験者が希望するメンバーを他クラブに連れていき、それぞれのクラブの在り方(歴史)や、違い(地域性・個性)を体験することで、自クラブの良さや改善点を発見する試みをしているそうです。この様に、数多くの有意義な講話があったのですが、最後に『国際ロータリーが目指すDEI』(セッション3)のお話をさせていただきます。『D』とは、ダイバーシティ:ロータリーはあらゆる背景を持つ人や幅広い文化、経験、アイデンティティーの人を歓迎するという事。『E』はエクイティ(公平性):ロータリーは、クラブ会員の公平な扱いと機会の均等を保つよう務める。『I』はインクルーシブ(包摂性・受け入れる):ロータリーは、あらゆる人が歓迎されていると感じ尊重され会員として大切にされる。次年度にも掲げられておられますが、これからのロータリーに於いてまさに真髓になってくるテーマであると思います。人種、男女、職種、年齢差の壁を超え、その先にある高尚な部分で繋がって行くことが相手を理解する最善の方法ではないかと考えました。今回勉強させて頂いたことを、ロータリーのみならず、自身の生活の中に活かして行きたいとおもいました。

出席報告	5月24日	会員数	出席数	出席免除	欠席数	出席率	5/10修正率
	昼間	19	16	2	3	82.4%	82.4%

ニコニコボックス報告 16名 合計金額 17,000円 累計金額 392,000円